

第三百九回 青葉会

平成二十三年十二月九日(金)

末廣亭昼席↓ 年忘れ句会 丸紅来客食堂「談話室」

〈選者〉

〈出席者〉

☆川合万里子先生
石川清 今井紀久男 大林猛 小川恭延 久米五郎太 朱牟田恵洲(寄席のみ) 豊田ゆたか
橋口隆(句会のみ) 福島正明
小西弘子 朱牟田恵洲 古田昇

〈互選句〉

四点

☆ナイフ芸肝を冷やして年暮れる

(☆↓肝冷やすナイフの芸や年暮るる。r年の暮)

猛 (万・恭・ゆ・隆) ゴシックは選者の天

☆辛き年なりしが寄席の年忘れ

恵洲 (万・清・紀・隆)

☆笑ひ得ぬ一年縮める忘年寄席

正明 (万・猛・恭・五)

三点

☆開戦日卒寿の義母(はは)は生を閉ぢ

五郎太 (万・恭・隆)

☆先代になお遠き芸冬の寄席

恵洲 (万・清・正)

☆白菜を干せばうらめし俄雨

ゆたか (万・清・五)

二点

悴むを和気満堂の寄席解(はぐ)し

万里子 (五・ゆ)

不況下に上(あがり)り尽しの暮れの寄席

全 (清・ゆ)

肝冷やすナイフ飛び交ひ年忘る

清 (紀・正)

☆馬の助の百面相に年忘る

全 (万・恭)

☆寄席までも不景気らしく年暮るる

恭延 (万・正)

国会も今日が終りか師走寄席

五郎太 (猛・正)

外は冷え百面相は笑ひ呼び

全 (ゆ・正)

鱈汁のどこの骨やら腕の底

弘子 (猛・五)

☆うまくないと断る曲芸暮の寄席

ゆたか (万・隆)

年金で暮らす勤労感謝の日

昇 (恭・ゆ)

行く年や首飾り派手な漫才師

万里子 (隆)

取りもまた借金嘶師走寄席

全 (ゆ)

☆酔ひ痴(し)れて妻褒めしきり師走寄席

全 (猛)

☆吟行や囊をおして末廣亭

紀久男 (万)

義士外伝丁髷釈士の泣かせをり

全 (正)

年の瀬や嘶家余興百面相

全 (五)

黄落やMETのトイレはTOTO製

全 (恭)

行く年や笑い集合末広亭

全 (隆)

柿落葉実は輝いて鳥招く

全 (紀)

☆心地好く睡魔迎へぬ暮の寄席

恭延 (猛)

☆待合せ冬の日早く落ちにけり

全 (万)

「奥州安達原」

袖萩母子三味弾き語る雪の中

五郎太 (紀)

答なき季題追ひつつ十二月

弘子 (五)

床の冷え笑いでぬくめ昼の寄席

ゆたか (清)

大地震(なみ)にユーロも揺れて年暮れる

全 (紀)

金色の銀杏踏みつつ金貨なら

全 (紀)

師走寄席土瓶の芸に肝冷やす

隆 (紀)

生きる世の絡繰りを知る師走寄席

正明 (清)

討入りの講談に涙師走寄席

全 (猛)

限りある余生楽しく木の葉髪

全 (紀)

昇 (紀)

来年度予定

正月五日(木) 吉例初芝居総見 新橋演舞場(昼の部)

一月二十六日(木) 初句会 午後六時〜九時 コンチェルト「談話室」

▲各自当季雑詠各自五句。投句は二句

以上文責

紀久男

平成二十三年十一月句会報

一 今回は先生以下14名出席。投句8名。弘子さんの司会で御覧のように一灯さん、天牛さん、忠彦さん、小生が好成績でした。社友会事務局の神山さんが届けてくれた「紅レポート」創刊号と孤舟さんの新刊『句集 蒼茫』を回覧。先生のベトナム米使用の春巻、弘子さんのおかき（豆源）、楠田ヒロミさんの海苔巻つまみ（熊本風の風雅）、亜也さんの「大信州」純米吟醸、小生の「張鶴」（新潟・村上）を賞味。

体調よくなりつつある正明さん得意の駄洒落が次々に炸裂して皆さん感心。亡くなった談志の評価（新聞・TVは褒め過ぎ？）欠席された天牛さん奥様の病状。塩見さんの病状等話題となりました。

二 関係者近詠

エンジン切るや車内へ虫時雨	万里子	郭公や飯盒の飯よく炊けて	孤舟
もくもくと雲を逆立て颱風来	全	海亀を星夜の波へ返しけり	全
街路樹を空へ採み上げ颱風過	全	遠き日へ吹く薫風のハーモニカ	全
無防備に眠る幸せ虫の声	眞希子	夕焼を乗せてゐるなり観覧車	全
築三十年姑と三十年秋刀魚焼く	全	甚平や道踏み外すには遅し	全
「お疲れさま」で始まる夕餉衣かつぎ	全	——「夾樹」十一月号——	
政争の紙面の裏は秋の詩	弘子	柏槇の幾星霜や時雨過ぐ	允章
幕間を虫の音の継ぐ野外劇	全	薄き日を溜めて茶の花咲きにけり	全
ガラス戸に映る背正す秋の朝	全	冬日燦港の見えぬ丘なれど	恭延
触れさせて生きるのら猫桐の秋	全	三の西鎮魂の年も暮れ行く	五郎太
高き秋飛行機雲が横に裂く	恭延	夕間暮れ襦袍着せばや三笠山	堂哉
秋霖雨リハビリ院の扉押す	全	初時雨苔をひと刷き伎芸天	全
名月の射し込みてをり目を覚ます	和夫		
秋彼岸過ぎて草木の支度かな	忠彦		
甥仕込む播磨屋芸の冷まじき	紀久男		

——『萬緑』十二月号——

平成二十三年十二月句会報

一 冬晴の午后、末広亭の木戸をくぐつて、ばらばらに席に着きました。恵洲さんが中学の同級会とかで女性の多いお仲間を引率して御見物（サツポロライオンで忘年会の由）。猫八の声帯模写を楽しみにしてましたが休演。いつもより一寸淋しい感じでしたが、菊之丞、馬の助。馬生には満足しました。

二 「空は太初の青さ妻より林檎受く」10月12日成蹊学園創立百周年記念に草田男の句碑の除幕式。草田男の三女、中村弓子お茶の水女子大名誉教授（五郎太さんの学友）、鍵和田柚子、佐々木幸綱の記念講演会の模様など先生より資料コピーを配布された。

久しぶりゆたかさんの進行役で、猛さん、恵洲さん、五郎太さん、正明さんが高得点でした。

三 話題

（一）馬の助の珍しい百面相（二）天牛さんの奥様順調に恢復（三）松山捕虜收容所（四）聖書の口語訳（五）多田富雄の新作能（六）前夜の大滝君の落語の会に産経新聞OBの稲垣真澄さん、恵洲さんも参加（七）正明さんの店仕舞（書聖展・初謡）等々

句会があつさり片付けて恒例の二次会。恭延さんの乾杯で始まり、クリスマスソング中心に盛りまりました。

先生寄贈の俳句カレンダー、志ん馬師匠寄贈の落語カレンダー、雷門の尾張屋寄贈のカレンダーを今年上達著しい清さん、猛さん、五郎太さんに進呈。正明さんの中締め。

平成二十三年十二月十六日

紀久男記